
よろず屋に変人！?(・o・)

莓リズム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

よろず屋に変人！？（・o・）

【Nコード】

N2955Y

【作者名】

莓リズム

【あらすじ】

暇？な大阪の学生が書いてる小説だす（^o^）
少しくらい場面あり 戦闘シーンのときのみ

第一訓 プロローグ(前書き)

初めまして！(^o^)

投稿できない日があり週1っていつ可能性大有りなんて
覚悟！？を！！

第一訓 プロローグ

20年ほど前

うちの隣の家に坂田銀時っていうやつがおった髪はその名の通り銀髪でも目がなんちゅうの・・・死んでる

しかも偶然に偶然・・・おんなじ寺子屋通ってた

いわゆるおさなじみ

歳も同じ

んでうちの容姿が・・・

髪はキレイな琥珀色

前髪は7:3分け

一一一
／／／

こんな感じ

ちなみに普段は髪をNARUTOの綱手みたいにしてる

知らない人は検索してみよう！

目は緑

まつ毛長くてくっりくっり

身長165cm

服は袖のないミニ着物

下がひざ上10cmやねん

もち、黒スパッツ着用一（七分丈）

靴はブーツ

体は・・・まあよくスタイルいいっていわれる・・・

で今そいつはどうしてん？？

っていうとよろず屋っていついわゆる何でも屋を開いてる

まあ・・・少し前に戦いがあったてみなさん知ってるあのメンバーで戦った

うちは女っていう理由で戦いは参加できへんかった

悔しかった

先生殺されたのに

でも、銀時は

「めんどくせけど、お前の分まで頑張ってやんよ」

って言ってくれた

うちそれでまあ、納得？したんやけど・・・

でそのよろず屋・・・手伝うことにした

まあ・・・あれ・・・うちの分まで頑張ってくれたお礼やな

で、しばらくして新八や神楽が入ってきた

つーことで、銀時、うち、新八、神楽でよろず屋の始まりや!!

第一訓 プロローグ（後書き）

感想とかがくれたらうれしいです

第二訓 よろず屋（前書き）

はい！先週一話書いただけであと全部書いてないアホ一名です！

よろしく

じゃあ本題へレッツゴー！

第二訓 よろず屋

あるよろず屋に朝六時という、早い時間帯によろず屋から大声が聞こえるのは
いつものこととなっている

あー！！申し遅れたんやけどうちの名前は、じんていゆめが竜堂夢叶といっねん！
よろしくなー！！

「夢叶！！今日の朝ごはん何アルカ！？？またよろず屋じゃあ稼ぎ
足りなくてここの家賃
払うためにまたなんかバイト増やしたアルカ！？？」

「神楽まず朝はおはよう。そして顔洗って服は着替える！！洗濯物
コインラ ドリーに持っていくから
ご飯は今日は和食！バイトはいつものことやからー！！」

はい。そうです

ただでさえ家賃払うので精いっぱいなのに、神楽は大食いで生活費が毎月ピンチやねん・・・

だからよろず屋以外に、コンビニのバイトしたりしてんねん！

夢叶は神楽同様よろず屋が家です

このよろず屋には洗濯機とのがないねん！！

ほんま意味分からん！

「あー・・・夢叶・・・俺の分の味噌汁確保しといて」

「銀時ご飯は全部確保しとる！！お前も着替えて飯食わんかい！！いらんやったら全部うち食つからな！！」

神楽はもう着替えてお行儀よくイスに座っている

「いやあ夢叶・・・いつもすまないねえ・・・家賃とか掃除とか洗濯とかご飯とか！」

「もうそれ耳にタコできとるほど聞いとる！っーか悪い思うんやっ
たら少しはお前もバイトしろ！！
あんたの当番ゴミ捨てとジャンプ買いに行くだけやし！！なんで社
長のお前が何もせえへんねん
おらあ！！！！」

ちなみにうちは女いってなめたらあかんし！！
いつも帯には短剣入れてるし、怪力だって結構自信あるで！！

「まあまあ、夢叶さん落ち着いてください。銀さん夢叶さんの言っ
とおりですよ。
働く気がないんだったら夢叶さんの掃除のひとつお手伝いしたらど
うですか??？」

「ええこと言うやんだメガネ。」

「何がダメガネだああ!!!!」

「新八!!ご飯につばが跳ぶアル・・・汚いからやめろ」

「跳ぶの字って違くない!?ねえ違うんじゃない!?!」

「いっとくけどあたしは夢叶のお手伝いしてアルヨ。買い物の手伝いとか」

「「嘘!?!」」

銀時と新八が声をそろえて言った

「いや、ほんまやから」

「おい・・・俺見たことねえぞ・・・」

「僕もですよ！銀さん！！」

「まあ、それはいいとして・・・」

「「...」のかよ...」」

「もう話めちゃくちゃですよ……銀さん。」

「台本ガンスルーだな。」

「えっと……次なんだっけ……ちら……ああ！！そうそう今日はめずらしく依頼人が来るよ」

「棒読みじゃないですか！！それにあきらかに今”ちら”って台本見ましたよね！？？」

「細かいことはどうでもいいんだよ。ダメガネ」

「だから、ダメガネ言うな！！銀さんあんたどっちの味方なんです

ピンポーン

か！？？
」

「あ！インターホンなってる・・・夢叶みてこーい・・・」

「はーいはーい・・・」

ボタン

・
・
・
・

「はい……」

がら！

第二訓 よろず屋（後書き）

PS

銀「つて終わり方半端だなおい!!」

神「銀ちゃん、しょうがないある作者はめんどいからこつするアルよ?」

新「なんで疑問なんですか……」

夢「はい!次へ続きまーす」

新「当たり前だろーが!!これで次回違う始まり方だったら完ぺきおかしいだろ!!」

第三訓 めんどくさいやつ来た！（前書き）

はい、次々となんかすんません。

第三訓 めんどくさいやつ来た！

なぜ戸を閉めたか

それは・・・

「ちょー！！夢叶！？何で戸閉めたの？？いいかげんにしなさい！」

がらー！！

「その意味分からん変なキャラやめんかい！ツラー！！」

でついでに飛び蹴りかます

「ぶはあ！！・・・ツラじゃない桂だ」

「どーでもええ！！ってかあんたか？？依頼人って？」

「その通りだ。」

ついでに横におるエリザベスもつなずいた

「えーと・・・#あぐんげん」

「で、何のようだ？」

「知っている通り我々は攘夷志士だ。それで最近買い物しようと町まででかけたら」

「おい！ちょっと待て！！もうそれ完全にササエさんのパクリだよ

「!!」

「ダメガネの言うとおりや!!どーせ次財布を忘れてスーパーで万引き やろ!!」

「ちげーよ!!なんで万引き!?!世界のササエさんファンに謝れ!!
!長谷川 町子に謝れ!!
つてかダメガネいうな!!」

「新八・・・お前しらねーの??ササエさんの替え歌・・・ちよ
つと前まではやってたじゃん」

「そうアル!!スーパーで万引き みんながにらんでる おまわり
怒ってる
ルルルルル 今日はいいい天気」

「知らねーとかお前遅れてんちゃん???」

「もういいよ！僕が悪かったよ！！で・・・桂さんそれでどーしたんですか？？」

「で買い物しようとしたら・・・外にでられんだ・・・」

「「「「はぁ！？」」「」「」

「何それ！？お前もう外に出てここきてんやん！！！」

「何それ！？ひょっとしてお前真選組に見られて隙の空いた今ここ来たとかいうけい？」

「銀時の言つとおりだ」

「神楽」

「ほあちよー！…！」

「ぶはあー！…！」

エリザベス
「！？」

「なんだよそれ!! あきらかにお前あれだろ!!」

「手伝ってくれっか!?? あ” あ” ん!? やんのかコラぼけえ!
」!

「お前絶対夏休みにアニメとかはまりすぎてオタク化するタイプネ」

「ちょ・・・これ本当!! 真選組かはどうか分らんが、何かが我々を監視しているのだ!!」

「本当かどうかわかりませんが・・・銀さんどうします??」

「まあ、とりあえず受けるけど・・・金払えよ」

「そうアル!! 久しぶりに洋食食べたいネ!!」

「んでなんか心当たりは??恨まれるようなこと最近してへん?」

「・・・そういえば・・・なんかヤクザっぽい奴に当たってケンカ売られて殴ったら弱かった・・・」

「かんぺきそれやん!!もうお前それやん!!絶対それやん!!」

「個人的の問題じゃねーか!!!俺達になすりつけんなよ!!!」

「まあ……受けちゃったし……やるしか……」

「ち……!行くぞ!神楽、新八、夢叶」

第三訓 めんどくさいやつ来た！（後書き）

次回、依頼開始！？

第四訓 偵察？日記（前書き）

ではでは・・・

第四訓 偵察？日記

まず、私たちはその問題である家に向かった

「ちよっと！銀さん……どうします？……このまま
進めばめんどいですし……」

「葉一……」

「あーもう……お前もまず考えろ……おいッラ双眼鏡貸せ」

「はい。」

「みんな……ついてくる……」

「んでなんで屋上……?」

「しるまい！何にも言わへんくせに！黙っとけ！！」

「まあまあ銀さん、ここは夢叶さんにまかせましょつ。」

で双眼鏡をのぞく

「んーと・・・あそこが攘夷志士の集まる場所やんな・・・」

その周りを見ると完ぺきやばかった。

望遠鏡とか刀もった着物の男たち しかも全員いかついおっさんが

その場所をガンミしとる・・・!!!!

「ツラー!!!!お前なんちゆ奴に手えだしとんねん!!!やばいやん

「!!」

「どうしたんです!?!」

「何かあったアルか?」

「あーちよつと貸せ!」

で銀時が見る

「あーあ・・・何あれ・・・お前マジでやばいわ・・・」

「ツラ!ほかのメンバーはどうしたん?」

「一応その屋敷にいさせるのはやばいからな・・・みんな今日は家に帰らせた。」

「っし！ナイスや！！ツラ、エリザベス、なんか変装しとき！！」

「分かった。」

「っておい！！待て！！」

「どづしたんです??銀さん。」

「今回の依頼は悪魔で屋敷に変な奴等に見られてる・・・ってことだ！！」

つまり、見ている本人を見つけたんだから依頼はおしまいだ！！」

「銀ちゃん・・・ケチくさいアルな・・・」

「そうですね・・・真選組だったら無視しようと思ってましたが・・・」

「いいんちゃうん??依頼最後まで受けても・・・」

「んなこと言ってるどーせ真選組が関わってくるんだよ・・・」

ちなみにツラとエリザベスが帰ってきた

ツラはマリオ

エリザベスはルイージ

ひげまでつけている

「まあ・・・これで外へ出られるやん。」

「正直あんないかついおっさんに謝ってすむ問題じゃないですよね・・・」

「んじゅ、どーすんだよ・・・」

「殺って真選組に届けるか??」

「夢叶さん・・・あんた今とんでもないこと言いましたよね??」

「いいアルな!」

「ちょっと!神楽ちゃん!」

「ってアレ??土方さん、近藤さん、山崎、誰かいますよ??」

「え……まさかこの声は……」

新八はあせりながら言う

「ありゃ……マジで真選組来たよ……」

「ほら！俺言ったじゃん！！……こういつの言ってたらくこうなるよって
……」

「ますます話がややこしくなってきたアル。」

「ってよろず屋じゃないか……何してんだ？こんな所で……」

「銀時……あのさ、あのゴリラとタバコ吸ってる兄ちゃんとバズ
ーガ持ってるヤツ」

誰？」

今まであんまりかわらなかつたんで初対面だ

「夢叶さんは初めてお会いするんですね・・・えっと」

「あのゴリラは近藤アル。真選組の隊長ネ　タバコの方は土方、副長アル。
でバズーガの方は沖田アル。」

「ふーん・・・」

「えっと、そのお姉さんの名は??」

ゴリラが話かけてきた!!

「えっと、竜堂 夢叶です。よろしく」

「そうですね。夢叶さんよろしくお願いします。」

「旦那の知り合いですかい??」

「いや、ずっと前からいるよろず屋のメンバーだ。簡単に言つと俺のおさなじみ」

「つー奴だよ。」

「でお前ら何してんだ、こんなところだ」

「ここにおる、マリーオとルイジ　がよろず屋の依頼でなんか変な
奴に

目えつけられたからそれをどうかせえって・・・ほらおそこにおる
いかついおっさん達。」

「なんだと!?!」

「実は俺達もその目的だ。」

「やばい奴等なん??!」

「ああ。独断で武器を作りそれをやばそうな奴等に渡してるんだ。
しかも高額で」

「なるほど……目的は同じってことか。」

「なんかアレの空気じゃないですか??」

「うん。」

「よし!じゃあ手を組もう!」

「はい!来た!……!……!……!……!」

第四訓 偵察？日記（後書き）

山「って完ぺきに僕の存在忘れられてる！..！」

新「どんまいです...！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2955y/>

よろず屋に変人！?(・o・)

2011年11月20日20時24分発行